

ワーキングの開催及び取組状況

ワーキングでの検討

2019年6月にワーキングを立ち上げ、四万十川流域生態系ネットワークの形成に向けた取組の検討を行っています。2019年12月に開催した「第1回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」の結果を受けて、今年度は銃猟の規制に向けた取組を重点的に進めました。また、四万十川流域生態系ネットワークの今後の進め方について、全体構想（案）を検討するとともに、有識者との意見交換を通して今後の取組内容の検討を進めました。

○今年度の取組内容

①銃猟の規制に向けた取組

- ・特定猟具使用禁止区域の指定手順と必要な手続きを確認。
- ・特定猟具使用禁止区域の要望範囲(案)を整理。
- ・猟友会や各地区の関係者との調整を継続的に実施。

②全体構想(案)の検討

- ・ツル類の安定した越冬環境づくり、ツル類を活かした地域・人づくりの取組内容や目標を検討。

③意見交換

- ・ツル類の越冬環境づくりの検討に資するため、生態学が専門で、関東地方の生態系ネットワーク形成に関わってこられた長谷川雅美氏(東邦大学理学部教授)を招いて、意見交換を実施。
- ・自然を活かした観光の展開の可能性の検討に資するため、地域資源を活かした企業研修やアドベンチャーツーリズムに造詣が深い眞田直也氏(株式会社JTB高知支店長)を招いて、意見交換を実施。
- ・多様な主体と連携・協働した取組の検討に資するため、豊岡市でのコウノトリとの共生の取組に当初から関わってこられた宮垣均氏(兵庫県豊岡市コウノトリ共生課)を招いて、意見交換を実施。



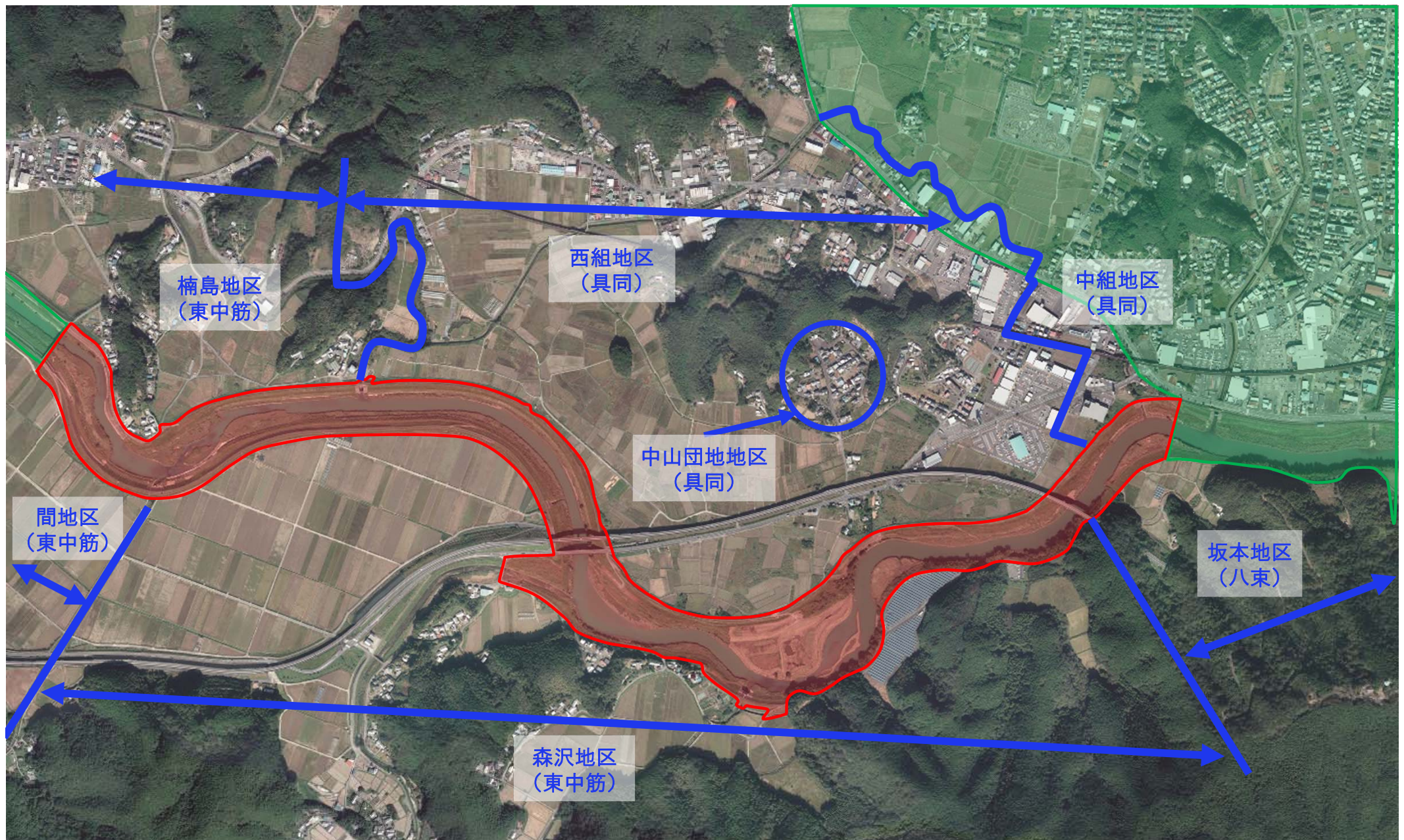
ワーキングの開催状況



有識者との現地確認

銃猟の規制に向けた関係者との調整

特定猟具使用禁止区域の指定に向けて、猟友会や各地区の関係者と調整を進めています。



規制範囲(案)及び地区割り概略イメージ

銃猟規制要望範囲(案)

銃猟規制設定済み範囲

堤内地での代替ねぐらの創出

四万十川流域において、ツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加したものの、主要なねぐらである四万十川の砂州周辺での落ちアユ漁、狩猟等の影響により、11月中旬以降には他地域へ飛び去る個体が増加し、越冬に至る個体数は極めて少ない状態です。そのため、四万十川の砂州を利用できなくなった場合の代替ねぐらを確認することが重要です。

ツル類のねぐら環境の条件

- ・湛水深:5~10cm
- ・人工光が入らないこと
- ・日の入り1時間前~日の出1時間後に人や犬が近づかないこと



江ノ村地区でのねぐら環境の創出

江ノ村地区の田んぼの一部に、冬期に水を張ることで、ツル類のねぐら環境を創出する取組を行っています。江ノ村地区の水を張った田んぼの状態を確認するために、自動撮影カメラを設置しました。ツル類(ナベヅル)の利用は確認できなかったものの、日中はサギ類が、夜間はカモ類が利用していました。



江ノ村地区で冬期に水を張った田んぼ



カモ類が利用

ツルの自然体験学習会

2020年10月28日（水）に東中筋小学校16名、東中筋中学校5名の計21名の児童生徒に参加いただき、ツルの自然体験学習会を実施しました。

当日は、まず四万十市に飛来するツル類の生態等について学習した後、四万十つるの里づくりの会が餌場づくり等に取り組んでいる江ノ村地区でデコイ（ツルの模型）の設置や水生生物の観察などを行いました。

児童生徒の皆さんは、「ツルがいっぱい来て欲しい」、「この自然環境をどういう風を守るか僕たちも考えていきたい」と話してくれました。



ツル類に関する解説



4班に分かれ、ナベヅルのデコイを設置



児童生徒により設置されたデコイ(4体)



ツル類のねぐら環境の創出の説明



江ノ村地区で捕獲した水生生物の解説



土水路での水生生物の観察

四万十つるの里祭り

2020年11月28日（土）に「第12回四万十つるの里祭り」（主催：四万十つるの里づくりの会）が開催されました。当日は、野鳥観察ツアーやツルの写真等パネル展、四万十の野草がゆをふるまうツル食堂、太鼓の演奏などが行われ、約1,000人の来場者で賑わいました。

四万十川流域はツル類が飛来する貴重な環境であることやツル類保全の取り組みについてPRしました。



新型コロナウイルス感染症対策として、入り口でのマスク着用と消毒を呼びかけ



四万十市へのツル類の飛来状況や取組等を説明

野鳥観察ツアー

当初は、バスでツル類の飛来地を巡る予定でしたが、祭り当日にツル類が確認されなかったため、会場近傍の堤防へ徒歩で移動し、主にカモ類を観察しました。子供連れをはじめとした12名の参加があり、実施後のアンケート(回答者6名)では、回答者全員が「満足」という回答をいただきました。

今回のバスツアーは何を通じて知りましたか？

ツルの里まつりチラシ	4
国土交通省のホームページ	0
SNS（投稿者）	0
その他	2
・知人	

四万十市の環境を学習したり、体験したりできるイベントやツアーがあればどのようなものに参加してみたいですか？

四万十市を代表する植物や生き物を専門家に説明してもらいながら見たり触れたりできる学習会	6
農業や漁業などの体験を通じて四万十市の環境を学習できるイベント	4
四万十市を代表する景観や環境を専門家に説明してもらいながら複数箇所巡るツアー	2
その他(①～③と組み合わせたら良いもの)	0
収穫したものを食べることができる	



大勢の来場者により賑わう



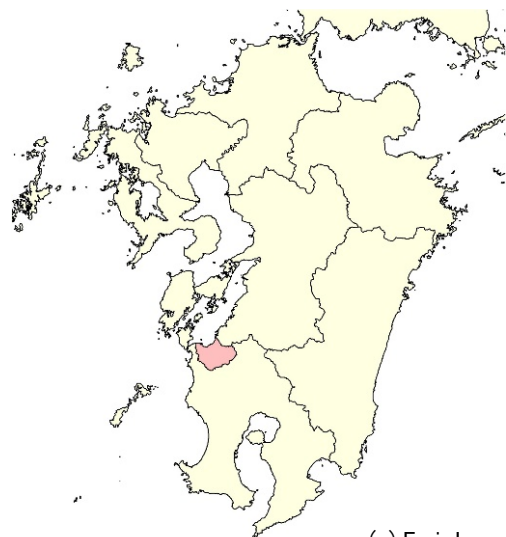
中筋川の堤防よりフィールドスコープも用いてカモ類を観察

鹿児島県出水市との交流

鹿児島県出水市は、世界的なツル類の越冬地として知られており、ツル類と共生するためにさまざまな取組が行われています。今後、四万十川流域における取組を検討する上での参考とするため、2021年1月29日～30日に出水市を訪問しました。

ツル類の分散を目指して、出水市では今年度から給餌量の削減が行われており、四万十川流域での新越冬地の形成に向けた取組をさらに進める好機を迎えています。

出水市の概要



(c) Esri Japan

面積	329.98km ²
人口	53,091人(2021年1月1日現在)

出水市へのツル類の渡来

毎年10月頃から3月頃まで、1万羽以上のツル類が越冬のために渡来します。出水市では、世界に分布する15種のツル類のうち7種(ナベヅル、マナヅル、クロヅル、カナダヅル、ソデグロヅル、アネハヅル、タンチョウ)が確認されています。

出水市での主な取組

給餌量の削減

出水市では、ツル類の渡来地への一極集中を抑え、分散化を図るために、2020年から給餌量を1割ずつ、約5年間かけて半減させようとしています。

ツルとの共生に向けた社会実験

ツルと共生した新たな地域づくりを目指し、2016年度から特に観光客を対象としたツル越冬地への入域制限を行っています。入域制限中には、いずみツルガイド博士や農業者、海苔生産者らがガイドを行うミニバスツアーが試行されています。

※新型コロナウイルス感染症の影響で、今年のミニバスツアーは中止。

ラムサール条約登録に向けた取組

ツル越冬地のラムサール条約登録に向け、2020年1月に出水市ラムサール条約登録推進協議会を設置して、検討を進めています。

学校教育での活用

小中一貫の義務教育学校である鶴荘学園では、「ツル科」という独自の教科が特設されています。1～6年生まではツルや出水市の自然、町、人との関わりについて学び、7～9年生はテーマを設定し、研究を深め、発信を行います。こうした学習により、児童生徒の郷土愛やコミュニケーション能力を育てています。

2010年度から出水市教育委員会により市内の小中学生を対象とした「チャレンジいずみツルガイド博士検定」が実施されています。筆記試験と実技試験に合格すると、ツルガイド博士と認定され、ツル観察センターでのガイドを行えるようになります。これまで、総計13,768名が受験し、237名がツルガイド博士として認定されています。



鶴荘学園へのヒアリング



出水市教育委員会へのヒアリング

(参考)出水ツルフェスタ

ツル越冬地で利用調整をする理由

世界的なツル越冬地

西日本を中心に各地で越冬していたナベヅル・マナヅルは、明治以降の乱獲や開発により激減しました。戦後の記録ではわずか275羽。その後、出水では長年の保護活動により、24季連続で1万羽を超えるツルが越冬しています。

ツル越冬地の現状と課題

たくさんの野鳥が集まるため感染症による大量死の危険性や、ツルの給餌に集まるツル以外の野鳥による農作物や、養殖海苔への被害が生じています。養殖の町として、鳥インフルエンザの防疫体制は徹底していますが、ツル越冬地への通行が増えることでリスクが高まります。また、一部の観光客の行動が、農作業や地元住民の生活の妨げになっています。そのような背景から、社会実験として「利用調整」の取り組みが始まりました。



【利用調整とは】

ツルと共生した新たな地域づくりを目指して2016年度より、「ツルへの配慮」、「地域住民と来訪者との共生」、「鳥インフルエンザ等感染症の防疫」の観点から、とくに観光目的の来訪者に向けてツル越冬地への入域制限を行い、より積極的な利用のコントロール*を行っています。

*決められた手段（専用車、ミニツアーバス、タクシー、レンタサイクル、自転車、バイク、マイカー、観光バス）・指定ルートでの移動。試行段階のため、将来的に変更の可能性があります。

..... 越冬地環境保全協力金について

ツル越冬地の豊かな環境を保全し、持続可能な利用を進め、未来の子どもたちに引き継ぐための協力金です。利用調整エリアへの入域料として任意で納入をお願いします。結果の詳細は出水市HPで公表します。

協力金の使い道

ツル越冬地の環境保全：自然環境の保全や復元
防疫体制の強化：鳥インフルエンザなど感染症の対策として利用調整エリア内での石灰や消毒液の散布強化
ツルの保護管理：ケガや病気をしているツルを保護・収容し、野生へと戻す取組や、野生へ戻せないツルの育成

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

社会実験の結果は、出水市の条例制定を含めた将来的な制度化の検討に活かされます。

市民向け
前夜祭イベント

館・商店街イベント DENKEN WEEK 2月1日～2月7日



【場所】出水館歴史館周辺
国の重要伝統的建造物群保存地区で、日本遺産にも認定された「出水藩」と芸術、食、音楽がコラボレーションされたイベント



内容は変更になる場合があります。
詳細は後日出水ナビで案内予定です。



ラムサール条約登録に向けた ワイズユースを考えるシンポジウム

2021年1月29日(金) 18:00～20:00
市役所本庁舎4階 大会議室

申込
不要

講演I 「人とトキが共に生きる島」
佐渡市 渡辺 竜五 市長

講演II 「ツルを通じた地域づくりの取組」
四万十つるの里づくりの会
佐伯 達雄 会長

地域の小学生からの発表もあります

*内容は変更になる場合があります

主催：出水市

お問い合わせ

出水市ラムサール推進室 0996-63-8915 環境省出水自然保護官事務所 0996-63-8977
ツルフェスタ開催中の土日専用番号 080-8498-7162

【協賛】 赤鷲 やつみ 鹿兒島トヨタ KINOKI 興和光学株式会社 マルイ農業協同組合

【後援】 出水干拓東土地改良区・(一社)出水市観光協会・出水商工会議所・出水平野土地改良区・鹿児島いづみ農業協同組合
北さつま漁業協同組合・高尾野内水面漁業協同組合・鶴の町商工会

(参考)出水ツルフェスタ

ツルとの共生に育む社会貢献

シベリアから何千キロもの旅をするツルがくつろいで冬を過ごす。出水のツル越冬地。今年はずれへの親しみを深めるとともに、農水産業や観光との両立に向け、利用調整エリアへの「入域制限」と入域料として任意の「越冬地環境保全協力金」のお支払いをお願いする社会貢献を行います。

利用調整エリア

期間中、利用調整エリアへの入域は★の地点からのみ可能です。利用調整エリア内は、終日入域が制限されます。
★の地点は、Google マップ「荒柿の田の神」で検索できます

「荒柿入口交差点」から入る

入城証で入館無料

ツル観察センター

八代海を臨む大パノラマが楽しめる展望スポットで、ツル越冬地の広さを実感。早朝・夕方に屋上から見ると、ツルの飛び立ちやねぐら入りは、出水ならではの圧巻の景色です!
開館 6:30 ~ 18:30 (1/23~2/7のみ延べ)
1/30・31、2/6・7は、おいしい食べ物の特別出店も!
出水市 2478-4 Tel.0996-85-5151

入城証で入館無料

クレインパークいずみ

日本唯一のツル専門の博物館。詳しいツルの解説や、取り巻く状況が、時代の変遷とともによくわかります。屋外の遊具や広場でも、のんびり過ごせます。
1/30・31、2/6・7市内飲食店のテイクアウトや、出水の特産品・土産物が出店!
ツル観察センターから車で20分
出水市文化町1000 Tel.0996-63-8915

利用調整エリアへの入り方

STEP 1 上の地図の★の場所で協力金を支払う

協力金*をお支払いいただいた方に入城証をお渡しします。「入城証」は、ツル観察センター、クレインパークいずみへの入館が無料のほか、専用車、ミニバスツアーが利用できます。ぜひご協力ください。

協力金は、ツル越冬地の環境保全、防犯体制の強化、ツルの保護管理のために活用されます。お支払いは任意となります。

協力金 料金

小中学生半額 未就学児無料

1日 500円/1人

ツル観察センターに駐車の上、専用車への乗り換えや、ミニバスツアーにご参加いただけます。

マイカー 1日 1,000円/1人

利用調整エリア内の指定ルートを、マイカーで移動できます。

期間内全日 3,000円/1人

1月23日～2月7日までの全日、上記の内容をすべてご利用いただけます。*市内居住者は半額

STEP 2 ツル観察センターでレクチャーを受ける

ツル越冬地のルールなど、レクチャーを受けることで利用調整エリアへ入れます。6:30～18:30(15分間隔で開催)、各回約10分・定員15名。

STEP 3 専用車やミニバスツアーを利用する

入城証の提示で、専用車やミニバスツアーに乗車できます。できる限りご利用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

専用車・ミニバスツアー利用特典

先着で特産品プレゼント!

KOWA双銀鏡の無料貸出しも!

スケジュール

1/23	24	25	26	27	28	29	30	31	2/1	2	3	4	5	6	7
●															

● 利用調整期間 ● プリウスPHV ● グリーンスローモビリティ ● ミニバスツアー、ツル観察センター・クレインパークいずみでの出店

専用車

PRIOUS PHV

鹿児島トヨタ特別協賛
充電式ハイブリッドカーレンタル
貸出: 5台(定員5名)
1/23 ~ 2/7の16日間

グリーンスローモビリティレンタル
貸出: 4台(定員4名または7名)
1/30 ~ 2/7の9日間限定

ミニバスツアー

1/30・31、2/6・7の4日限定

ボードウォッチングコース

ツルを見るだけじゃない思わず誰かに伝えたいくなるマメ知識満載の3コース

珍しい鳥も見れるかも。鳥の専門家とご一緒に。

歴史不思議発見コース

昔の越冬地はどんな場所だったの?

出水ご当地産物コース

海苔や養鶏、農産物。ツルとのつながりは?

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ツル観察センター入館時及びバス乗車時のマスクの着用と手指の消毒、バス乗車前の検温にご協力をお願いします。